

野幌森林公園内の鳥類リストについて

梅木 賢俊 武田 忠義* 永安 芳江**

要 約

北海道中央部に位置する野幌森林公園で、1999年（平成11年）7月から2001年（平成13年）3月までに公園内の代表的な環境である、森林地区と草原地区において鳥類の調査を実施し、鳥類リストを作成した。森林地区で観察された鳥類は1999年度に43種、2000年度に52種、全期間を通して58種、草原地区で観察された鳥類は1999年度に43種、2000年度に60種、全期間を通して63種が確認された。観察された種類や種数は、石狩低地帯の大規模な成熟した落葉広葉樹林で観察が期待される種類をほぼ網羅した豊かなものとなっており、森林性鳥類にとって良好な環境となっていることがうかがわれる。また、確認された種類の9割を超える種が3月から9月までの間に出現していた。

Key words: 北海道中央部、野幌森林公園、道立自然公園、鳥類、リスト

1 はじめに

野幌森林公園は都市部近隣にあり、多くの道民が利用する身近な自然であると同時に、石狩低地帯における開拓以前の姿を大規模にとどめる、貴重な森林でもあり、周辺地域の生物多様性を保持するために重要な存在である。

しかしながら、野幌森林公園の鳥類相を概観できる自然環境調査は意外と少ない。

また、近年隣接地の開発が進む中で、その資質を把握しておくことは重要である。

本調査は、当公園内の鳥類相や鳥類の季節変動を把握するために行うものであり、また、年ごとの情報を比較していくことにより長期的な変動を把握することを目的として行うものである。

今回は、1999年度、2000年度に行った調査結果について報告する。

2 調査地

野幌森林公園は、札幌市の中心部から東方約11~15kmに位置し、1968年（昭和43年）に北海道百年を記念して指定された面積約2,051haの道立自然公園である（図1）。

本調査地は標高が30m~90mと低く、全体としては傾斜に乏しいゆるやかな丘陵となっている。中央には南北方向にやや小高い分水嶺があり、東側は千歳川、西側は豊平川の支流が深い沢となって入り込んでいるため、地形が複雑

である。さらに、農業用の溜池などもあるため、変化に富んだ環境を有している。

植生は、天然林の部分は温帯林から亜寒帯林への移行帯に位置する森林の様相が比較的良好に残されており、ミズナラ、カツラ、シナノキなどの温帯性の広葉樹、トドマツを主体とする亜寒帯性の針葉樹が入り交じった針広混交林からなる多様な林相が見られ、100種を超える自生の樹木が記録されている。ただし、公園面積の40%程度をトドマツ・カラマツなどの針葉樹人工林が占めている。本地域は

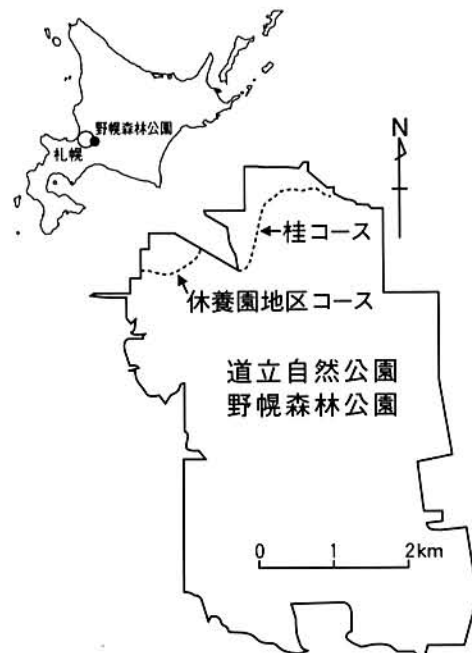


図1 野幌森林公園の位置及び調査路

* 北海道環境生活部環境室自然環境課

**北海道野幌森林公園事務所公園利用課

多雪地帯であり、林床はクマイザサやチシマザサが優占するほか、エゾユズリハ、ハイヌガヤ等の低木が茂っている。

また、公園の一部には草原が分布するが、ここは休養園地区とよばれ、耕作放棄時に表土を搬出されたと思われる状態で、堅く乾いた土壌である。そのため、セイタカアワダチソウ、オオアワダチソウなどが優占する帰化植物群落からなり、群集構造的にも空間構造的にも特異かつ単調となっている。

3 調査方法

調査場所は、野幌森林公園内の代表的な環境である森林地区（桂コース）と、草原地区（休養園地区コース）の2カ所であり、いずれも遊歩道等を利用して、桂コースに2 km、休養園地区コースに1 kmの調査路を設け、線センサスを実施した（図1）。

桂コースはハルニレ・ミズナラの大径木を主体とするトドマツを交えた成熟した針広混交林内を、休養園地区コースはオオアワダチソウ等が優占する草原と沢沿いに残された天然性二次林等を通っている。沢沿いの天然性二次林は樹高10数mまでのミズナラ、ハルニレ、ヤナギ類を主体とし、林床はクマイザサが優占している。特に林縁部はクマイザサ及び外套植物群落がみられる。

調査は日の出後1時間前後を開始時刻とし、荒天日は避けて行った。調査路を時速1～2 kmで歩きながら、調査路の両側それぞれ25m、計50mの範囲に出現する鳥類の種類と個体数を記録した。調査範囲外に出現した鳥類については、種類のみ記録した。

調査は1999年7月～2000年3月まで各月1回の、計9回、2000年4～6月の各月2回、2000年7月～11月、及び2001年1月、3月に各月1回、計13回を両コースとも同日に実施した。

4 調査結果及び考察

森林地区の桂コースでは1999年度に43種（表1）、2000年度に52種（表2）、2年間を通して58種が確認された。草原地区の休養園地区コースでは1999年度に43種（表3）、2000年度に60種（表4）であり、2年間を通しての合計は63種であった。また、2000年度の調査結果から、厳冬期のみ確認される種類は1～2種と少なく、3月から9月までの間に9割を超える種が確認された。

両コースあわせて確認された種数は74種（表5）であったが、このうち47種が両コースに共通して観察された。これは休養園地区コース沿いに天然性二次林が存在するため、桂コースと共通する森林性の鳥類が相当数観察された

ためである。

桂コースのみで確認された種類としては、オオタカ、ハイタカ、ヤマシギ、フクロウ、ヒバリ、キセキレイ、コマドリ、メボソムシクイ、キバシリ、アトリ、カケスの11種で、ほとんどは森林性鳥類であった。

なお、ヒバリは草原を好む種であるが、観察路に隣接して草地が存在していたため、さえずりが聞かれたこと、また移動する個体が上空を通過し、観察されたものである。また、ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、クロツグミ、コルリ、ヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、ククイタダキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アオジ、ウソ、イカル、ニューナイスズメも森林性鳥類であり、両コースに共通して観察されているが、休養園地区コースに比べ本コースで観察数が多い傾向にあった。

一方、休養園地区コースのみで確認された種類はマガモ、キジ、オオジシギ、アリスイ、クマゲラ、ハクセキレイ、タヒバリ、ノゴマ、ノビタキ、シロハラ、エゾセンニユウ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、オオジュリン、コムクドリ等の16種で、草原や耕作地などを好む種類が多くなっている。ただし、クマゲラは森林性であり沢沿いの天然性二次林や隣接する森林内の枯損木に採餌のために飛来するものが観察された。このほかにもモズ、メジロ、ベニマシコ、シメ、ムクドリも草原や灌木林などの開けた環境を好む種類であり、両コースに共通して観察されているが、桂コースに比べ本コースでは観察数が多い傾向にあった。

コースごとに出現種類の特徴をみると、桂コースでは、留鳥ではハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴジュウカラなど、夏鳥ではアオジ、カワラヒワ、ヤブサメの観察数が多かった。繁殖期の5月から7月にかけてヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、アオジ、カワラヒワ、ニューナイスズメが優占していた。

次に桂コースで記録された鳥類の種類数を、同じ石狩低地帯の大規模な、成熟した落葉広葉樹林における記録と比較した。札幌市の南東部に位置する羊ヶ丘白旗山鳥獣保護区では57種が¹⁾、苫小牧市の北海道大学苫小牧地方演習林では61種が²⁾確認されている。本コースで観察された58種はこれらと同等の種類数であり、羊ヶ丘白旗山鳥獣保護区とは46種が、北海道大学苫小牧地方演習林とは45種が共通していた。また、上記2カ所とも繁殖期にはヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ニューナイスズメなどが優占しているが、本コースでも同様であった。

以上から、桂コースの鳥類相は石狩低地帯の落葉広葉樹林で観察が期待される種類をほぼ網羅したものと考えられ、森林性鳥類にとって良好な環境となっていることがうかがわれる。

休養園地区コースでは留鳥ではヒヨドリ、ハシブトガラ、シジウカラ、シメなど、夏鳥ではアオジ、カワラヒワ、ムクドリの観察数が多かった。繁殖期の5月から7月にかけてヒヨドリ、ヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、シジウカラ、アオジ、カワラヒワ、シメが優占していた。これらの種類の多くは森林性であり、草原や灌木林などの開けた環境を好む種類としてはアオジ、カワラヒワ、シメ、ムクドリの4種類であった。この地方の平野部の灌木・草原を選好する代表的な種類としては、ヒバリ、ノゴマ、ノビタキ、コヨシキリ、ホオアカ、オオジュリンなどが報告されている^{3) 4)}。しかし、本コースではヒバリ、コヨシキリは観察されず、ノゴマ、ノビタキ、ホオアカ、オオジュリンも、少ないか偶発的な出現にとどまった。

5 おわりに

野幌森林公園内の鳥類相を長期的にモニタリングすることにより、鳥類の季節変動や鳥類相の変化等を把握することを目的として、1999年の7月から鳥類調査を開始した。

公園内の鳥類相を把握するために月1回から2回程度の調査を行ったが、今後長期的に観察を続けていくためにはどの程度の観察頻度が必要か、検討したところ、厳冬期のみ確認される種類は少ないこと、4月については上旬と下旬で観察される種類が異なることなどから、3月から9月までの間で4月のみ2回、それ以外は月1回程度の調査を行うことにより、出現種数の9割以上を確認することが可能であることが分かった。

このことから、この期間を中心に観察を行うことにより鳥類相の概要を把握することが可能と考えられる。

今後は、春から秋の期間を中心とした調査を継続して出現種数をモニタリングするとともに、数年ごとに今回実施したような高頻度の調査を実施し、種ごとの個体数の変動を把握することが望ましい。

この調査を行うにあたり多くの方々に協力をいただいたが、特に調査に協力をいただいた野幌森林公園事務所の魚津幸一氏（現・空知支庁）、大沼治氏（現・室蘭土木現業所）、瀧下佳穂氏に対し、この場を借りて厚くお礼を申し上げる。

参考文献

- 1) 富沢昌章：羊ヶ丘白旗山鳥獣保護区の鳥類リストについて、北海道環境科学研究センター所報、22：61-68, 1995.
- 2) 石城謙吉, 松岡茂：北海道大学苫小牧地方演習林の鳥類相その1 広葉樹天然林と針葉樹人工林における夏

期の種構成と生息密度、北海道大学農学部演習林研究報告、21：95-103, 1983.

- 3) 北海道自然保護協会, 石狩川中、下流域における鳥類生息調査報告書、pp.17, 1979.
- 4) 北海道自然保護協会, 石狩川中、下流域における鳥類生息調査報告書、pp.15, 1980.

The Birds List of Nopporo Forest Park

Umeki Masatoshi,
Takeda Tadayoshi,
Nagayasu Yoshie

Abstract

A bird species list of Nopporo Forest Park, a park with representative natural environment located in the middle of Hokkaido, was made after a survey was done on this area between July 1999 to March 2001. A total of 58 species of bird was recorded, including the 43 species, and the 52 species recorded in 1999 and 2000 respectively in the forest area. In terms of grassland area, 63 species was recorded, in which 43 species was recorded in 1999, and 60 species in 2000. Most of the bird species type and numbers were observed at the mature broad-leaved forest of the Ishikari lowland area. And the species observed exceeded 90 percents from March to September.

表1. 1999年度に森林地区（柱コース）で観察された鳥類

(調査日の列の数字は、確認羽数。*印はコース外でのみ確認された種)

科名	種名	7/16	優占度	8/19	優占度	9/22	優占度	10/21	優占度	11/18	優占度	12/16	優占度	1/26	優占度	2/16	優占度	3/15	優占度	出現頻度
タカ科	オオタカ							1	1.8									1	4.3	2/9
	ハイタカ			2	3.9															1/9
ハト科	キジバト	1	1.9	5	9.8															2/9
	アオバト	*																		1/9
カッコウ科	ツツドリ	*																		1/9
フクロウ科	フクロウ																	1	4.3	1/9
キツツキ科	ヤマゲラ							1	1.8											1/9
	アカゲラ	1	1.9	1	2	2	2.3	1	1.8	3	3.8	2	5	4	12.5			1	4.3	8/9
	オオアカゲラ									1	1.3			2	6.3			*		3/9
	コゲラ	1	1.9	2	3.9	1	1.1	2	3.6	2	2.5	2	5	5	15.6			1	4.3	8/9
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	7	13	5	9.8	7	8	3	5.4	20	25.3	5	12.5					3	13	7/9
ツグミ科	コルリ	1	1.9																	1/9
	ルリビタキ							2	3.6											1/9
	クロツグミ	1	1.9																	1/9
	アカハラ	1	1.9																	1/9
	ツグミ									10	12.7	18	45							2/9
ウグイス科	ヤブサメ	5	9.3	4	7.8															2/9
	ウグイス					3	3.4	5	8.9											2/9
	エゾムシクイ			2	3.9															1/9
	センダイムシクイ	3	5.6	4	7.8															2/9
	キクイタダキ					2	2.3	2	3.6					3	9.4					3/9
ヒタキ科	キビタキ	1	1.9																	1/9
	オオルリ	3	5.6																	1/9
	コサメビタキ			1	2															1/9
エナガ科	エナガ					2	2.3	1	1.8	5	6.3									3/9
シジュウカラ科	ハシブトガラ	2	3.7	6	11.8	10	11.5	7	12.5	12	15.2	4	10	9	28.1	4	80	4	17.4	9/9
	コガラ					2	2.3													1/9
	ヒガラ	2	3.7			3	3.4	2	3.6					4	12.5	1	20	2	8.7	6/9
	ヤマガラ	*		3	5.9	7	8	4	7.1	2	2.5	2	5							6/9
	シジュウカラ	9	16.7	4	7.8	28	32.2	3	5.4	9	11.4	1	2.5					6	26.1	7/9
ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	*		3	5.9	12	13.8	8	14.3	2	2.5	2	5	1	3.1			2	8.7	8/9
キバシリ科	キバシリ									1	1.3			1	3.1					2/9
メジロ科	メジロ							1	1.8											1/9
ホオジロ科	アオジ	16	29.6	1	2	7	8													3/9
アトリ科	カワラヒワ			2	3.9			7	12.5											2/9
	ベニマシコ							*												1/9
	ウソ									2	2.5	3	7.5	3	9.4					3/9
	イカル	*		5	9.8	*														3/9
	シメ			1	2			3	5.4	5	6.3									3/9
ハタオリドリ科	スズメ							1	1.8											1/9
カラス科	カケス					1	1.1	2	3.6											2/9
	ハシボソガラス									3	3.8									1/9
	ハシブトガラス	*								2	2.5	1	2.5					2	8.7	4/9
確認種数	43	21	17	15	20	15	10	9	2	11										